

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079900223		
法人名	社会福祉法人 鷹羽会		
事業所名	グループホーム しじみ苑	ユニット名	A棟
所在地	福岡県田川郡大任町大字今任原3485-1		
自己評価作成日	平成25年1月11日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月28日	評価結果確定日	平成25年7月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大任町の小高い丘陵地にあり、周囲には山々を見渡せる展望の良い自然に恵まれた場所に木造平屋立てのゆったりとした開放感ある暖色でまとめられた住環境である。近隣には小学校や保育園があり、地域交流で小学校との交流会などが進んで取り組まれ、学校帰りにはその小学生達が立ち寄り職員や利用者と交流が図れている。また、それ以外に併設しているケアハウスとの交流も多く閉塞感無く自由に行き来できる触れあいの多い、和気あいあいとした施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

香春岳を眺めることができる高台にあり、併設されるアハウスとの日常的な交流や、近隣の小学校や中学校、保育園との交流を積み重ねている。職員体制が安定していることから安心感があり、相互理解や思い合える関係性を目指し、「ひとりみんなのために みんなはひとりのために」とされる理念の実践に取り組んでいる。また、個々の状態に合わせた高さの踏み台を用いた昇降体操や、音楽療法を通じた取り組み、役割りの創出等、必要な支援を見極めながら、心身の機能維持や活性化に向けたアプローチを行っている。楽しい音楽に合わせ、生き活きと体操している姿や、賑やかな言葉のやり取りがとても印象的であった。管理者、職員は、日々の心身の変化に向き合い、喜怒哀楽の表出の場面を大切に捉えながら、個人の尊重と社会生活の継続に向けた支援に取り組んでいる。今後も、個別支援の追求や、関係者との連携を活かした地域拠点としての活動展開が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」という管理者の思いを込めた理念を朝のミーティング前に職員一同で唱和し、一人一人尊重した介護を心掛けている。	毎朝のミーティングで理念を唱和し、新たな一日が始まる。シンプルに示された理念をひもとき、社会生活の中で入居者も職員もお互いを思い合って力を合わせ、暖かいホーム創りを念頭に置いている。また、職員個々の目標を設定し、ホームの理念に照らし合わせながら、実践に結び付る取り組みがある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣には小学校や保育園があり、年数回交流会がある。神幸祭では地域の神輿が訪れて踊ったり、グッドライフと合同での行事もあり交流する機会が多い。地域住民が利用者の事を知っていると気やすく話しかけくれ利用者も嬉しそうに生き生きとされている。	保育園児の訪問や小学校運動会の見学を通じた交流の機会がある。運動会では席も用意され、ゆっくり見学することができる。大任町の文化祭には、入居者の方々も貼り絵等の作品を出品し、見学に出かけている。隣接するケアハウスとは日常的に交流の機会があり、中学校の職場体験の受け入れも行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別取り組んではいないが、運営推進会議などを通じて行政や地域住民の代表、民生委員に相談をし交流会の機会を設けていただけるように働きかけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、行政職員、地域住民の代表、民生委員、家族で構成され開催している。行事・事業報告、利用者の生活の様子などを報告し時には助言などをもらっている。	大任町皿山地区代表、町役場職員、民生委員、家族2～4名の参加を得て、2か月に1度、定期的に開催されている。事業報告や意見交換がなされ、運営に反映できる様努めている。地域消防団の方の参加に向けた働きかけを予定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表や職員内で同じ市町村民が多いので、何か分からない事があれば、気やすく相談出来るし、市町村側も威圧感無くアットホームな雰囲気に対応してくれるので、積極的にサービス向上に向けて連携が図れている。	推進推進会議には、町役場職員の参加を得ており、日頃より情報共有に努め、アドバイスを頂いている。お互いに顔の見える関係性の中で、サービス向上に向けた連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で研修会を行っており、研修会に限らず判断に困った時などはその都度把握に努めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は施錠を行っていない。研修を実施し、職員の共有認識を図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。個別のリスクを検討し、家族とも共有認識を図りながら、環境整備を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で内部研修会が取り組まれており、職員全体が身体拘束や虐待をしない、ならないよう認識している。			

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状として、制度を活用している対象者はいないが、今後必要となる可能性も十分にあり、その為にも資料の整備や理解を今後も深めていく必要がある。このため今後の課題として捉え内外の研修会の機会を確保したい。	玄関には制度に関するパンフレットを置き、自由に閲覧できる様にしている。現在、制度を活用している方はいないが、行政主催の研修に参加しており、職員の理解を深めながら、必要時に活用できるよう、体制の整備に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に添って補足し詳しく分かり易い説明を心掛けている。利用者についての情報を得ながらそれに伴う起こりうるリスクなども説明したうえで理解と納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	信頼関係がとて重要となる部分なので、利用者や家族が遠慮なく気軽に言える関係を築けるよう努力している。それには毎回面会時には利用者の状況報告をし、職員から家族や利用者へ要望等が無いかを投げかけて何でも言える環境を作るように努めている。	玄関に目安箱を設置しているが、職員に直接話す方が多い。行事やバーベキュー企画した際は、家族の参加を呼び掛けており、その際にコミュニケーションを深め、意見の収集に努めている。事業所からは、毎月「しじみ便り」を送り、行事の写真を添えて入居者の様子をお知らせしている。運営推進会議には、複数の家族の参加を得ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催。内容によっては代表者も参加している。ミーティングに限らず、普段でも何か意見等があればその都度、意見や提案などコミュニケーションを図る機会があるので反映出来るよう努めている。	毎月、ユニットごとにミーティングを開いている。2か月に1度は合同で職員会議を開き、研修を実施しており、要望や相談など、随時施設長に表出できる機会がある。また、施設長と職員の食事会も開かれており、距離感が近く、風通しの良さがうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との関わりを増やし職員の状況を把握する為、対話を大切にしている。向上心のある人には出来るだけ色々な機会を与えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用に関しては年齢や性別などの制限はなくヘルパー2級資格取得を基本として採用にあたっている。また、それ以外に、本人の意欲・意向を確認し採用決定の際は代表者と各ユニットの責任者で検討している。採用後は介護福祉士の取得を促している。	職員採用にあたり、性別や年齢による制限は行っていない。ヘルパー2級取得を基本として、全員、常勤での採用である。資格取得を奨励し、勤務調整などで支援している。現在職員の交代がほとんどなく、和気藹々とした和やかな雰囲気は、日々の暮らしに潤いを与えている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育や啓発活動に関する研修の機会は少ないが認知症ケア・身体拘束について内外研修の資料等を通じて人権尊重やプライバシーについて話し合っている。	外部、内部の研修を通じて、様々な視点から意識を高められるよう、人権教育、啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は進んで参加するよう投げかけている。学びたい内容の研修を職員が希望し参加出来るような機会を確保。また、研修報告と勉強会を定期的に行い、職員全体が共有出来るように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大任町にグループホームが3事業所もあり、行政の協力を得て数回交流会を設けているが質の向上に向けた意義のある会への発展には至っておらず、今後回を増やしていけるよう取り組んでいきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の高齢者にとって、新しい環境への適応は大きなストレスとなるので、本人の性格や生活歴を家族から情報を収集し、不安や要望を伺い、状況を見ながら見学などでまずは安心してもらえるような環境作りを通じてから馴染みの関係作りが出来るように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	遠慮なく何でも気やすく相談や愚痴が言える環境作りを確立していく為に、日頃からコミュニケーションを十分図り、威圧感を与えないように努力している。家族の協力が何よりも不可欠なので、家族との信頼関係に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から、入所前面接の際に本人の情報収集を十分行っているが不十分な時はその都度家族に状況報告を行った上で気になる事は情報を得ながらサービス提供を行う際に反映できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体は利用者であり、職員は介助者ではあるが、利用者にとっては環境の一つであることを伝え、職員主体、業務主体にならないよう内部研修やミーティングなどで職員に理解してもらうように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症高齢者にとって、ケアするにあたり家族は必要不可欠な存在であり、協力を必要とする存在である。信頼関係を築く事を第一に面会時には何でも言える関係に近づけるようコミュニケーションが大切である事を伝え関係を築いていけるよう努めている。		

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族の面会がある。外泊が困難でも、外出だけでも勤めている。隣接のケアハウスより入居された方も多く、グループホームに移動してからも関係が途切れないよう行事の時には進んで参加を促し、またグッドライフの入居者からも面会に来られたりと関係は継続している。また、それ以外に地域行事への参加を利用し馴染みの人から声を掛けられ交流を図る機会もあり支援に努めている。	馴染みの美容室での時間を楽しむことや、かかりつけ医の継続等、これまでの関係性の継続を支援している。ドライブの途中で近隣の「道の駅」に立ち寄った際など、地域の方と出会うことも多く、旧交を温める機会ともなっている。隣接のケアハウスよりグループホームに入居された方もおり、相互に行き来を行う機会もある。家族機能を大切に捉えた働きかけや、地域行事への参加を通じた交流等、活発な支援が行われている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は居室にこもる事もなく、全員がリビングで過ごされているので、入居者一人一人を見渡せる環境となっている。日頃の様子を見ていく事で、少しの変化にも気づく事ができ、トラブルや状況によって孤立する傾向になる前に職員が間に入りフォローするように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても今後も何かの縁でいつでも相談にのる事を伝え、いつでも連絡してきていただきたい旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の今まで歩んできた生活歴や性格などをコミュニケーションや日頃の日常生活の中で見つけていくように努めている。、極力本人の意向に添うように取り組んでいる。	安定している職員体制の中で、馴染みの関係性が継続している。和気藹々とした雰囲気の中で、喜怒哀楽の表出がしやすく、実際に自由な、活発な発言の場面も見られた。このような暮らしの営みの中で、思いや意向の把握や、個別性の尊重に努めていることがうかがえる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしさを把握する為、本人や家族、また今まで利用してきたサービスで得られる情報は収集し、その方の生活の様子を把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何か気づいた事、いつもと様子が違う等些細な事でもあればケース記録に記載するようにし職員全体に情報がいくよう現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務の中で得た情報や本人との会話の中で見えてくる思い等を汲み取り、家族からの意向等も取り入れ会議で情報を検討し共有しながらよりよい計画書に繋げていけるように作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、全職員で協議を行っている。計画に基づいた日々の確認のもとにモニタリングを実施し、現状の把握と見直しの必要性について検討を行っている。	

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子などは気づいた事があれば些細な事でもケース記録に記載するように職員間で徹底しており、また毎月職員間で利用者について話し合いをしている。職員間から出てくる気づきなどを上手く反映しモニタリングを行いプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症高齢者は少しの環境変化に影響を受けやすく、様々なニーズが求められるが、その人にとって一番良い方法で対応が出来るよう家族にもこまめに状況報告を行いながら時に協力を得ながら支援出来るように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生まれ育った人、たまたまそこに移り住んだ人、人それぞれであるが、馴染みのある環境、人との関係が途絶えないよう行政や町、小学校や保育園などの環境を上手く活用し交流が図れる機会を設けられるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用している病院を継続して受診出来るように本人の意向に添って受診介助を行っている。またその時に必要となった他科受診に関しては日頃から利用者の様子を状況報告しており、必要となれば家族同行での受診の協力を求めている。	入居時に、かかりつけ医について確認し、継続受診を支援している。また、複数の協力医療機関や訪問看護との連携も充実しており、適切な医療を受けられるよう支援している。看護計画も丁寧に作成され、日々の健康管理やケアへの反映、適切な受診へとつなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回地域の訪問看護を利用している。些細な事でも気になる事があればいつでも尋ねる事が出来ており相談し日々の健康管理やケアに反映させている。また、何かあればいつでも対応してくれるので上手く活用していきたい。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は各医療機関のMSWや各担当スタッフに必要な情報提供を行い、施設側、家族側の意向を伝え早期退院出来るよう連携を図り対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居するにあたり「看取りに関する指針」を示し、説明を行っている。日頃から利用者の様子を家族に報告していき重度化しつつある状況やその後の在り方については本人、家族、スタッフ間で検討していきながら共にチーム全体で協力を得ながら支援出来るように取り組んでいる。	入居時に、「重度化した場合における対応指針」を示し、同意を得ている。指針の中には、「看取りについての考え方」として、方針の共有や意思確認、支援体制等について、わかりやすく具体的に示されている。状況の変化に伴い、関係者で話し合いを重ねながら、方針を共有している。昨年は、看取りを経験しており、個別の思いや状況に向き合いながら、出来る限りの支援を行っていく意向である。	

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や内部研修を取り入れ、入居者の急変や事故が起きた時は迅速に対応出来るように周知徹底を行っている。その為にも定期的な研修会は必要である。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した年2回消防署協力の下での通報・避難・消火訓練を実施。また自主訓練、内部研修も実施している。	消防署の協力も得ながら、昼夜を想定して避難訓練を実施している。また、緊急時の対応等についても、職員個々のスキルの向上に努めている。隣接するケアハウスとの連携も含め、地域との連携強化に向けた働きかけを行う予定である。	現在、地域の消防団との関係を模索しているところであり、運営推進会議への参加に向けた働きかけや、消防団の勉強会への参加等を検討している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴に配慮した言葉掛けをするように心掛けている。一人一人にあった親しみのある方言を交えたコミュニケーションで日頃から関わりを持つようにしている。逆に親しみ高じて自尊心を傷つけないように配慮しながらその人らしく過ごせるように心掛けている。	伝わる言葉として方言を交えながら、家族の一員としての親しみのある関わりと、誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉使いについて、振り返る機会をもっている。喜怒哀楽や意思の表出を大切に捉え、受け止めながら、個人の理解に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人の話に耳を傾け要望を尋ねている。その為にも何でも言えるような雰囲気作りを心掛けて自己決定が出来るように買い物や行きつけの美容院行き等希望に添うように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状況、職員体制や業務によっては必ずしも希望に添えていない事があるのも事実であるが、生活の主体は利用者である事を日頃から職員には伝えていき、利用者のペースで無理強いする事がないよう心掛けて支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望する洋服を入浴準備や外出する際には選んで準備、着て頂けるように支援している。行事の際には自ら化粧を施したり、希望する美容院に行けるよう送迎をしたり、欲しい化粧品があれば注文や購入代行したりと対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節間を感じてもらえるよう食材には季節の物を取り入れた料理を提供。嫌いな食べ物は別の食材で賄うなど個別に合わせた食事を提供。また、個々のレベルに合わせ役割提供(テーブル拭きやコップ洗い、配膳や食材の下ごしらえ等)分担して参加して頂いている。	嗜好や栄養バランス、季節感等に配慮しながら、食事を提供している。また、希望に応じた少人数での外食の機会も多い。下ごしらえや配膳、後片付け等、暮らしの営みの中で個々に応じた役割を担ってもらい、力を発揮する場面を支援している。	

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康チェック表、パターンシートを作成し水分量や食事摂取量等が一目で把握できるように心掛けている。肉と魚を上手く取り入れたバランスの良い献立を考えて食事を提供。上手く水分が摂取できなければ時間毎の水分提供やゼリーによる代替ケアなどをして水分摂取に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。義歯は職員が洗浄し、残っている自分の歯は磨いてもらうように対応している。利用者によっては夕食後、義歯洗浄剤を使用し消毒を行っている。また、毎週月曜日に訪問歯科が来苑され口腔ケアを行い定期的に診て頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンシートを作成し時間時間でチェック出来るようにしている。排泄パターンの把握に努め個別にトイレ誘導を行い失禁に至らないように心掛けて対応している。	個別の排泄パターンの把握や何気ないサインを見逃さないようにし、さりげない声掛けや対応によるトイレ誘導を心掛けている。その方に応じた距離感に配慮しながら、機能維持に向けたアプローチにも努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護より便秘が及ぼす影響などを過去に勉強会で説明してもらったり、状況報告と指示をもらいながら便秘が原因で起こった利用者の状態変化を通して、理解している。適度な運動や食事の提供、便秘薬の併用などを上手く調整しながら便秘防止に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は1日おきと決めている。入浴の時間帯は本人に声掛けをして希望を聞いている。入浴拒否をする利用者もいるが、無理強いせず違うコミュニケーション法でスムーズに入浴してもらえるように支援している。	基本的に週3回の入浴日を設定しているが、時間帯等については、希望や状況に応じて柔軟に対応している。浴室環境を整備し、安全面やプライバシーに配慮しながら、心地よく入浴できるよう支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室にこもる利用者はおらず、殆どリビングでくつろいで過ごされている。リハビリやレクリエーション活動、役割提供による活動を行い活動する機会を設けている。その日によって体調や気分が優れない時は居室へ誘導したりと個々に合わせ急速が図れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者毎に薬の処方箋をファイルしすぐに確認が出来るように設置している。薬の変更等があった際は申し送り及びケース記録に記載し各スタッフが確認するようにしている。		

福岡県 グループホーム しじみ苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの出来る事、出来ない事を日頃の様子から観察し個別に応じて役割提供や買い物、リハビリやレクリエーション活動等をケアプランに反映し支援している。誕生日は本人の食べたい物を準備し御祝いしたりして喜ばれている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の身体状況や性格、要望等で全員とはいかないが、希望があれば個別に応じて行きつけの美容院への送迎や買い物へ外出支援している。それ以外では行事で花見や紅葉、外食などにも出掛け気分転換を図っている。	広い敷地内や陽当たりのよいウッドデッキ等、気軽に外気浴を行える環境にある。受診の送迎時には個別の買い物に出かけたり、ドライブ等はその日の希望や天候に応じて気軽に出かけるようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な利用者には管理をして頂いている。自己管理が困難な利用者に対しては家族の承諾のもとで施設管理を行い必要物品や日用品、希望する品物を購入するなどして支援を行っている。その際は金銭出納帳に入金詳細を記載し確認をして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自主的に電話をかける利用者はいないが、家族や知人に電話をしてもらいたい時は職員が変わりに連絡したりと支援している。家族や知人から連絡があった時は取り次いでいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽の光がよく差し込み明るく、共有空間のソファでは殆どの利用者がくつろげる空間となっている。周囲が山々に囲まれており鳥の声や四季折々の風景を感じる事ができ自然を感じられるスペースとなっている。利用者に寒暖の確認をこまめに行い温度・湿度調整を行っている。	高台に位置していることから、ゆとりある広さのリビングは、明るく、開放的な空間となっている。リビングからウッドデッキへとつながり、周囲の豊かな自然環境を間近に感じることができる。ソファの設置等、くつろぎの場所も確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の9割がリビングで過ごされている。気の合う物同士がパズルをしたり、何気ない会話をしたり、少し休みたい時は居室へ行き横になったりと思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はもしあれば今まで本人が使用していた馴染みのある好みの日用品や家具を持ち込んでもらえるように伝えている。食器等家族や本人の要望を取り入れ馴染みのものを使用している。	各居室の窓からは、広い敷地内や周囲の山々が眺められ、開放的な住環境である。使い慣れた家具や家族との写真等が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は各利用者の出来る事、出来ない事、分かる事、分からない事を把握し、その人にあった自立支援やある程度の見守りを行っている。		